

水俣病やガンの研究

熊大 工学、医学部に実験室

五百万円するという。この機械が入ると中性子の研究では熊大が九州で初めてで、医学ではガンや水俣病の研究、理学では生物の遺伝研究、工学では石油井戸の探さくなど広く利用される。また中性子発生機はX線機械と同じでスイッチを入れたときだけしか放射しないのでコバルト線源や原子炉のように防ぎよ壁などいらず危険性はない。研究室には文部省の補助があったが、中性子発生機は熊本が自費的に同大学の予算内で買ったもの。

いっぽう医学部付属病院内の臨床実験室は耳鼻科下の病棟内につくられているもので、トレーサー実験が主になる。ここではヨード、リン、イオウなどの放射性同位元素をつかって治療が行なわれ、水俣病やガンなどあらゆる病気に對して研究される。

なお熊大放射線同位元素委員会は工、理、医薬の各学部の教授ら三十人からなり、毎年二回以上研究会を開き、意欲的な活動を行なっている。

最近各分野でラジオ・アイソトープ(放射性同位元素)の利用が行なわれているが、熊大放射線同位元素委員会(委員長、四宮知郎教授)では、この研究のため昨年完成したトレーサー実験の「総合研究室」(医学部付属病院内)についで、申請中の工学部と医学部

工学部内にある中性子放射化実験室は三十三平方メートル、これ

付属病院内の研究室もこのほど許可がおり、工学部内に「中性子放射化研究室」付属病院内に「放射線臨床実験室」が今月中に完成、これまでの研究にさらに威力を増すことになった。

工学部内にある中性子放射化実験室は三十三平方メートル、これ